

## 第58回情報交流会 実施報告書 (HP)

開催日時	2023年12月2日(土) 13:30~17:00
開催場所	WEB開催
参加人数	参加者 26名 (正会員 26名、内講師3名、招聘理事1名)

### ■開会挨拶 (松田支部長)

■日本技術士会本部の活動紹介 (渡邊理事・前田理事) 11月9日に開催された理事会の報告がありました。

■県支部の活動紹介 総務委員会、研修委員会、技術士活性化委員会から今後の予定等について説明がありました。

### ■会員によるCPD講演

#### 講演1 「日本刀に学ぶ自動車部品の塑性加工・熱処理技術」 講師：藤川真一郎氏 (金属部門) 藤川技術士事務所



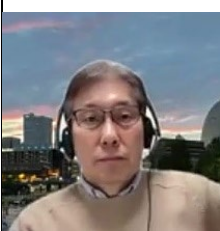
講師は日産自動車株式会社に入社され、鍛造・材料・熱処理技術の開発に携われた傍ら、日本塑性加工学会の運営 (会長職を最後に退任) にも尽力されてきました。

講演では古くから培われてきた日本刀のモノづくり技術が、現代の自動車鋼板や鍛造品の塑性加工技術・熱処理技術にそのコンセプトが伝えられている状況を「日本刀」における二項対立事象として「時間・空間デザイン」の視点も入れて説明を進めたいとのことでした。自動車の鋼材の研究にあたっては、日本刀の製造技術を学ぶことが自動車生産技術の応用に活かされるという観点から、

島根県のたたら製鉄の見学や神奈川県日本刀製作現場での体験などにより情報収集を行ったそうです。

そして、プロセス(時間)デザインとプロダクト(空間)デザインの視点から、「強度と加工性」、「強度と靱性」ならびに「実用性と美」の相反する特性を両立させる重要性の認識をされたとのことでした。

#### 講演2 「企業技術者から独立技術士への歩み」 講師：金井隆雄氏 (化学 総合技術監理) 金井技術士事務所



講師は新日本製鐵株式会社 (現、日本製鐵(株)) に入社され、主に先端技術研究所などでセラミックスや表面処理鋼板の研究開発に従事されました。

その中で、変圧器などの鉄心に求められる薄鉄板 (厚さ 0.2mm) への皮覆をセラミックス粒子 (2 $\mu$ m) で行う「一方向電磁鋼板絶縁皮膜」の研究開発に携わり、優れた密着性、張力付与、磁気特性を実現しました。

また、高熱伝導率と電気絶縁性を得られる「高熱伝導性窒化物セラミックス」の研究開発に従事し、電子部品などに利用されています。さらに、屋外に設置される家電製品 (空調室外機など) に多用されている「親水性皮膜 (シロキシン)」による耐汚染性と、自動車マフラーやオープンレンジなどに利用されている「耐熱性に優れた黒色皮膜」の研究開発にも携わりました。

現在は、2024年4月に予定している技術士としての独立に向けて、会社業務で得た経験を活かしながらコンサルタント業務も行い、神奈川県支部活動にも積極的に参画されています。

#### 講演3 「生物多様性とスポーツフィールド」 講師：春田章博氏 (建設 環境 総合技術監理) 春田環境計画事務所



講師は、環境保全と計画に関連するコンサルタントとしてキャリアをスタートさせ、主に自然環境の保護・保全・復元にかかわる業務を担当してきました。その一方で、日本技術士会(環境部会長、理事)や日本造園学会でも活躍をしてきました。

講演では、まず生物多様性に関する世界の動向について説明がありました。「生物多様性条約第15回締約国会議」(2020年開催)では、2030年までに陸域と海域で各30%以上の生態系を保全する「30by30」の目標が設定されました。日本では環境省が「自然共生サイト」を創設し、現在の生物多様性区域 (陸域で20%、海域で13%程度) を30%以上とする目標を設定しました。令和5年度には全国で約77,000ha (国土面積の0.2%) が認定されました。一方、これまでの研究で、ゴルフ場やスキー場には多くの生きものの成育・生息が明らかにされています。講演では、今後、生物多様性区域とする際の課題や問題点について提言がありました。

### ■自己紹介とオンライン交流会

- ・令和5年度の入会された会員2名から自己紹介がありました。
- ・参加者を3班にグループ分けして、それぞれで交流や情報交換を行いました。